

令和3年度第2回亀岡市まちづくり協働推進委員会
会議要旨

令和3年10月25日 15:00～17:00
市役所3階 302・303会議室

- 1 開会
- 2 開会あいさつ
- 3 協議

(1) 市民参加型ワークショップの開催について

事務局 資料に沿って開催計画について説明

資料：令和3年度市民参加型ワークショップの開催について

委員長 フォーラム案をご紹介いただいた。ご質問や、実施は決定しているのでより良くするご意見、アイデアがあればいただきたい。

私から一つ質問だが、参加人数の話が出たが、総勢何名ぐらいを想定されているのか。

事務局 総勢25名ぐらいを想定している。

委員長 発表活動団体が5団体で1団体から何名か参加という感じなのか。具体的な人数の想定を教えてください。

事務局 市民の方が5名、大学生が5名、高校生が5名で15名、活動団体から2名ずつくらいご参加いただけたらと思っている。最低でもこのくらいの人数だと思っている。

委員長 コロナ禍でソーシャルディスタンスを取らないといけませんが、人数を増やすことはできるのか。

事務局 もう少し増やすことは可能かと思う。

委員1 広報的にはいつ広報を始められる予定か。

事務局 亀岡市の広報誌の11月1日号でイベント実施についての広報を行う。文字数の関係で詳しく書けないので、同時にHPやSNSで呼びかけをする予定だ。

委員長 最初の活動団体の紹介だが15分×3団体で45分は参加者が退屈しないかと思う。また、15分喋ろうと思うとけっこう資料も用意しないといけないので、1団体の発表時間は短くして発表団体数を増やした方が賑やかでいいのではと思った。45分聞いているだけというのは結構長いので、1団体5分×5団体で30分までにしたり、団体数が増えたら一団体3分にしたらどうか。ただ、発表が3分だけだと内容が分からないので、交流会のところで発表をしてもらった団体に関心を持ってもらった人がそのテーブルに集まって、そこからもう少し直接お話を伺ったり意

見交換したり、そんな場を持った方が団体の方と参加者との繋がりもできていいのではないかと思う。これは私の考えだが、皆さんが他に私はこう思うとか、こんな団体に参加してもらったらどうだろうというアイデアをいただいてもよいか。活動発表をしたいという立候補もありだ。

委員2 このプログラムではワークショップが終わったあとの発表は求めない予定か。

事務局 今のところ求めない予定だ。

委員2 それなら、せっかく発表していただくのであれば、全体を通して区切るのではなくて、発表された団体に対してどうこうといったストーリー性を持たした2時間にしたほうが、参加していただいた方は流れとして掴みやすいかと思う。

委員3 目的についてだが、団体同士の交流っていうのはそれなりに少しずつできているのではないか。市民活動に興味のある人がはじめるきっかけを作ることが一番大事なところになるのであれば、例えば学生なら4人グループで来るとか、1人でも2人でも積極的に受け入れるような雰囲気づくりが必要ではないか。団体が活動を発表する場であれば、亀岡市の支援金の成果報告会があるので、新しく活動を始めたい人のアドバイスをするといった内容であれば、一回の事業を繋げていったらいいのではないか。

委員長 今委員3がおっしゃったことはとても大事なことで、目的のところいくつか並んでいるが、どれに重点を置いてやるかということかと思う。それを進めていくやり方は何通りかあると思うが、それでいくと「市民活動に興味のある人が何かはじめるきっかけ作り」を一番の目的にしたらどうか、というご意見だった。この三つの目的の他を外すのではなく、少し一つに重点を置くプログラムがあってもいいのではないかと、これから詳細を詰めていく中でそれがあるととても進みやすい。

委員4 興味があり参加したいが、市民活動に興味がある人ばかりが集まれば、こうした方がいいよといったアドバイスをすることが必要になってくるのではないかと思う。このイベントは応募期間や選考はあるのか。私がやりたいですと手をあげれば壇上に上がれるようなシステムなのか。個人的にはとても興味がある。まず大きく市民活動って何なのってなったときに街をきれいにしたい等幅は結構あると思う。そこに活動団体と市民がいて、高校生がいて、それぞれ価値観が違ってくるので、話を総括して何か意見が言える人というのは必要なのかと思う。素人さんばかりが集まって意見交換するときには方向性が示されるというようなことが必要で、その結果そこに行って良かったとなるのかと思う。

委員長 市民活動に興味のある方、ここでは団体で活動している方じゃない方、つまり何か自分でもやりたいなという方が来られたら、おそらく、整理整頓して話してくださる先生がいなくとも、実際に市民活動をされている団体の方も来られるので、そういう方とテーブルを一緒にして話すことで「あ、そういうことなのか」や「そんな

活動をしているのか」というところで、お互いに分かり合えるかとは思ふ。

委員4 ハードルを下げるというか、ハードルのない状態のために、何か市民活動として自分としてできることで貢献したいと思っている人に、何か自分でもできることはないでしょうかと意見を求めるといった、そういうことも可能なかと。

委員長 いまのお二人のご意見では、市民活動という話があったが、亀岡のまちに何らかの関心を持っている人たちが自ら活動を始めるきっかけを作る、「おもしろいな」「やってみたいな」そんな気持ちを持って帰ってもらえるような場にしていこうということか。

委員5 私の所属団体では、さまざまな団体の方と一緒に事業をすることがある。ここに書いてある活動団体の方やすでに活動をされている方って、けっこう意識が高い方だと思う。だが、ここで一番大事なのはそういった活動を始めてみたいという方を一人でも多くこの場に呼ぶことではないかと思う中で、先ほど広報誌・SNSで広報されるということだったが、ただ単純に掲載するだけなら絶対にその人達は来ないと思う。なかなか興味を引いてもらえないのではないかと。特に高校生などに対してどのようなPR活動をされるのかということが結構重要になってくるのではないかなと思う。私たちの団体でもこっちが伝えたいばかりの目線で行ったら、なかなか参加してもらえない人の目線になって事業ができていないという欠点もあるので、参加してもらいたい方の立場に立って広報された方が、よりそういった考えの方、何かやってみたいなという方に届くのではないかなと思った。

委員6 まさしく、おっしゃる通りで大学生や高校生で参加してくれる方にあてがあるのか。高校生とか大学生のボランティア団体、サークルとかそういうところのあてがあるのならそういうところにアプローチしていかないと、ただ待っているだけだと来られない。一般の何かやりたいと思っておられる方は結構おられる。やりたいことが見つけられていない方が結構いらっしゃるのでもうそうした方をこの場に参加してもらう工夫があるかと。もうちょっとインパクトのあるワードというか目的というかがあったらいいのでは。それにやっておられる方はずっと活動を続けられて充実されているので。市民活動団体の方と話をすると高齢化になってきてだんだんコロナの影響もあって実際に活動する方の人数が減ったというところが結構ある。その人たちの中にも新しく人を集めたいというか、団体に参加して下さる方を見つけないかと思っていらっしゃる方も結構たくさんいらっしゃる。例を思いつかないが、もう少しインパクトのある何かがあったらいいかなと思った。

委員長 ではまず、事務局で考えていることをお聞きして、そのうえで、経験豊富な委員の皆様はどうしたら人が集められるのかのアイデアを聞きたいと思う。

事務局 市のホームページには掲載するが、ご意見のとおり、当然掲載したからといって集まるものとは思っていない。一昨年市民活動推進センターと共催をしたフォーラムも結局はそれぞれにお願いをしたりしながら集めたようなことだった。まず、前回

参加していただいた方にはご連絡をして、委員の方と一緒に活動をされている大学生にもお声掛けをできればと思っている。

委員3 もちろん声掛けはして、10人くらいは引き連れてきたい。自分が勉強になるからと来てくれるかとは思っている。私の団体の活動にも手伝いに来てくれているが、けっこう強引に声をかけないと来てくれない。広報だけだと来てくれないと思うので、積極的に声掛けをしないと難しいのではないかなと思う。

事務局 高校は亀岡に2つあるが、前回の経験から難しいかと思っているが、再度お願いをしようとは思っている。また、興味は持っていて、これから何か始めてみようと思う方がなかなか思いつかないので、委員の皆様も、もしそういう方がおられたり、何かお話を聞かれたりすることがあれば、お誘いいただければ大変うれしい。

委員長 市役所の方では今まで関わりのあった学生に声をかけていくということ、高校生についてはお願いに行かれるということ。それ以外で、こんなことしたら、もしくは自分ならこんなことできるよといったご意見はないか。

委員1 先端科学大の亀岡キャンパスにはまちづくり系のゼミとかはないのか。そういったところにもともと興味のある方がいるのかと思うので、声をかけることはできないのかと思った。

事務局 学生課に行ってお話をしたいと思うのと、市民活動をされている先生もいるのでそこも訪ねてみたいと思う。

委員長 今、いいアイデアが出たので是非声をかけてみていただこう。委員5の団体で今までされた広報でこれは効果あったなというのはあるか。

委員5 たとえば子どもの事業をしたら親もついてくる、楽しいと思える事業を企画したらそこにそぐう広報、今までは新聞折り込みなんかもしているのだが、今はSNSで、例えばフェイスブックなら写真を載せてそこに説明文が書けるが、インスタだと写真メインで要約だけを載せる。そういった形で広報ツールを使い分けているということはあるが、特にこれが効果があるというものはない。やはり事業内容なのでは。

委員長 今 SNS という話がでたが、高校生大学生だとフェイスブックはほとんど見ておらず、ツイッターInstagram を使っているということなので、市役所が直接アカウントをもって発信するというのは難しいかと思うが、誰かがこんなイベントあるよと言って発信してくれたら効果があったりするのでは、そんな方法もご検討いただきたい。

委員5 この事業名が堅いと思ってしまう。もっと刺さるサブテーマでも何かを入れられた方がいいのかもしれない。

委員長 では皆さんサブテーマを考えよう。タイトルは変更できるのか。

事務局 変更できないのでサブテーマを付けるしかない。

委員2 今皆さんの意見を聞いていて、目的とかがとてもふわっと曖昧になってきているので、2時間しかない中で、もう少し絞った方向性を詰めておかないと、「こんなことやるから、来てね」という話だけで終わってしまう。内容にもう少し筋をちゃんとつけておかないといけないなど。もちろんそれでターゲットも変わってくるので、全体にまんべんなく来てもらったらいいではなくて、何をやりたいか、何を持って帰ってもらいたいかを、もう少し的確に捉えておかないと、やりませただけだと意味がないかと思う。

委員長 今のご提案の流れで言うと、大学生高校生を集めようとしているところはすごく重要で、市民活動に取り込もうと思っても高校生大学生はあまり来ない。あまり積極的に発言を欲していないところもあると思うが。それでいうと大学生高校生が来ることで、学生も市民活動に関心を持ち、一方活動をしている団体の方も学生と交流することで活動のヒントをもらったり、若い子とわいわいやることでモチベーションが上がるというか、元気をもらったり、そのあたりを一つ柱にしたらどうかと思う。亀岡で活動をしている団体の方にはまず来てもらおう、そういう団体と学生が市民活動をテーマに、と言ったら難しくなるので、交流をする、それでその交流から何かやってみたいという気持ちを強くしたり、今やっている活度をもっと前に進めたりしていこうというそんな前向きな気持ちをもって帰っていただけたらいいと思う。

委員2 今委員長のお話を聞きながら思ったのは市民活動をしている方から教えるよりももしかしたら、学生にどうしたら行きたい活動に、さっきのSNSの話とか、どうしたらみんなが興味を持つというのを聞くということが切り口でもいいのかと。だから先生が活動家ではなくて先生が学生みたいなもっていき方もありかなという気がした。そうしたら活動団体の人も興味のある内容になるかと。

委員長 それでいくと今この発表する団体は大人の団体を想定しているが、学生も何か発表してもいいのかもしれない。去年ちょっと関わったのだが、大学の学生が亀岡で産地消の加工品づくりなどのプロジェクトを組んでしていた。学校の授業だが、面白いことをされていた。例えばそういった活動を少し紹介いただくとか、そんなことができたらいいのでは。

委員3 私の団体も大学生が来始めて1年半になるが、少しずつ慣れてきて未来の不安などの自分のことも語りだしているので、学生が活動の紹介や自分の思いだったり考えだったりを発表することはできると思う。

委員8 もし、自分が団体紹介をしてほしいと言われた場合15分は結構長いな、資料作りにつこう時間がかかるし日程的にきついなどと思った。発表する側も自分は今仕事

を続けてやっているが、主婦をしていたときで何か活動したいと思っていた時にすごい活動を見せられたら気後れした記憶がある。こんな難しいことはできないというのではなく、とっつきやすい感じの発表を短くするのがいいのではないかと思った。子育て支援の活動をしているので、こういうイベントに若いお母さんに参加してほしいと思うが土曜日曜に開催なら託児が必要かなと思うのと、誘うときにイベントが堅くて参加しにくいかと。だが亀岡で子どもを産み育てているお母さんに今後のことを考えてもらう事がとても大事だと思うところもある。ただ学生さんとか全部混ぜるのは難しいのかなと。なにもかも呼ぼうと思ったら何も呼べなかったということもあるのかと。市民活動とボランティアといろんなことを、分ける必要はないかと思うが、意外とゴミを拾うそのことが市民活動になるとか、がっちりやらなくても市民活動になるんだよと伝えるだけでもすごく大事なことなのかなと思う。

委員9 私は自治会の代表をやっているのですが、非常に夢のある話だと思った。我々は生活に密着した、市民活動といえば市民活動だが、ごみの話でも日を決めてイベントとしてごみを拾いましょうというのではなく、毎日のことで、ゴミステーションには不正なゴミが出てくる。ただ対象が学生であれば社会に出るまでに地域社会にはこんな問題があるんだよということを学ぶ一つのきっかけとしての活動でいいと思うが、実際のところはもっと生活に密着したところでの活動を求められているんだよということを知って欲しい。学生さんが集まってなんかしようとするのとぽっと花火のように終わってしまう。そうではなくて継続性や地域にもっと密着した、人手が足りないところはたくさんあるので、そういう地味なことがベースにあって市民生活というのは成り立っているということを知ってもらえたら、結婚して世帯をもって地域に根差してとなると、自治会活動にも入ってきてもらえると。なかなか若い人は自治会に入りたがらないが、こういう興味のあることには取り組んでくれる。私の立場から言いたいのは、地味なことこそ大事なんだということを知ってもらいたい、そんな内容にしてもらいたい。

委員長 今の話はとても大切に、それでいくと発表団体はテーマ型の市民活動だけではなくて自治活動をされている方にも活動を紹介いただくことも大事かなと思う。「うちの自治会こんなことをしてます」って大げさというと説教みたいになってしまいますので、そうじゃなくて今おっしゃっていたみたいに毎日ゴミを拾ったりして苦労してるんだという話をぶつけていただくと、「じゃあ、それをどうやって解決したらいいんだろう」そんな話がきくと学生たちも考えやすいのではないかと思う。今とてもいいアイデアをいただいた。

委員7 学生を束ねて何かをするというアクションは当社のほうではけっこう目標にしてやっているところで、地域の人手不足やアイデア不足を若者で補おうということで、ボランティアとは呼んでなくてクエストと呼んでいて、地域の現状を良く把握することと、大人とコミュニケーションをとることで、自分自身の力量を見定めてもらう、という取り組みをしている。今、300人くらいの学生が会員になっているのでその方々が京都市内で交流できるように古民家を2棟借り上げて無料で開放している。そこにスポンサー企業をつけて、企業も取組としてチームを組んで地域に送

り込んだりしている。最近の成功例では南丹市の生身天満宮で NEC さんのソリューションを使ってお化け屋敷をやった。その取り組みもこのパソグラの取り組みの中から生まれている。今回のワークショップの学生はどこの学生をイメージされているのか。亀岡の方か。

事務局 現状は亀岡で学んでいる高校生、亀岡にある大学で学んでいる学生に声をかけようとしている。市としては亀岡で生まれ育った学生にも来てほしいので、亀岡から市外の学校へ通う学生はほんとうにたくさんいると思うので、そういった学生にも参加してもらえたらと思う。

委員7 可能性は十分あると思う。南丹でサテライトオフィスをやっているのだが、卒論でサテライトオフィスを学びたいということで亀岡出身の子が2人インタビューに来ている。けっこう積極的にやるなと思っていた。地方が過疎化していて、都心に働きに行くけども地域のことは考えていきたいと言っていた。やり方次第かと思う。その子たちのメリットとかゴールがもう少し明確になっているといい。単純に言うとプロモーションによるが、交通費とお弁当を出すと学生は来てくれる。あとはどんなことが学べてどんな大人に出会えるか。けっこう社会貢献がしたいという若者が多くて、多すぎて勘違いしているということが私の不安要素なのだが、高尚なことができると思っている若者にリアルな自分の力量を分からせている。そうしたことによって社会に出たときにアドバンテージをもって社会人になれるという活動をしている。亀岡の出身で亀岡のことを考えている、でも社会に出るんだけど亀岡のことも忘れないでねっていうメッセージ性であれば、何か面白いキャッチが作れるんじゃないかなという気がする。

委員長 今のところの計画では大学生5人、高校生5人となっている。なのでもうちょっと増やしてもいいのではないかなと思う。今のところ出た話でいうと、大学生10人くらい、高校生10人くらい。

事務局 大学生5人高校生5人は最低でも来てほしいという人数だ。

委員長 上限はどのくらいか。百人ずつくらいか。

委員7 少人数だと集まらない印象がある。5人とかだと、知らない人同士が集まりそうな印象があるので、部活ごととか5人グループでとかの方がいいかなと思う。

委員6 市民ホールのキャパはどのくらいか。

事務局 上限200人くらいだが、コロナで制限があるので、50人くらいかと思う。

委員長 上限50人くらいで考えてみると、高校生大学生15人ずつくらい来てくれてもいいのかなと思う。

委員6 学生さんが休みの日の午前中に来てよかったなって思うものをその2時間で感じてもらわないといけないと思う。団体の発表で活動紹介してワークショップしてといういつもの流れなので、もう少し主催者側の強く届けたいものを絞った方がよい。

委員7 懸念点としてはちょっと募集期間が短い。学生は1か月半先の予定が詰まっている。バイト、遊び、勉強。2ヶ月以上前に言っておかないと日曜日押さえてくれない。けっこうその辺真面目というかしっかりしているので、面白いネタがあったとしても「バイト入れちゃったんで」という子が結構多い。もう1点は学生が喜ぶのは交流。特に亀岡の学生、委員3にご紹介いただいた学生も、他の大学の学生と触れ合いたいという子が多く、5人5人5人で15人集めるとすると例えば5人のグループだけは京都市内からの参加とか、先端科学大じゃない学校から連れてくるとかっというのいいかもしれない。

委員長 現実的なご意見をいただいた。これから広報を行うまでの時間もなく、募集する時間もあまりないので、無理なくできることを1回目はしたらどうかと思う。今お話しがあった中でいくと、活動団体の紹介のところは短くして、団体もテーマ型だけではなくて、できたら地縁型の団体もひとつ参加いただいたらいいと思う。加えて大学生、高校生にもちょっと発表してもらおうというそんな場を設けたらいかかかと。私は交流が大事だと思うので交流の場を今回はしっかり作っていく、そんな流れはどうかと思う。具体的な流れについては私がファシリテータを仰せつかったので、一緒に詰めていきたいと思うが、どんなプログラムでも参加者によって反応が変わるので、ここに集う大学生がどんな大学生になるのか分からないが、皆さんから学生、市民活動をされている方、若者などにお声掛けいただいたら嬉しい。

委員7 テーマが決まっているわけではないのか。町の課題や不便なところを話しあって解決していけばということか。

委員長 今、交流会という話が出たが、亀岡で市民若者大交流会。まちの未来というほど大げさではなくて、今まちで暮らしている中で感じている不安や喜びやいろいろな思いがあると思うので、それを共有するところからスタートしたらどうかと思う。何もないと語りがないので、まず活動をしている大学生や市民の方に、こんなこと放っておけないのでこんな活動をしている、というのを一つのきっかけにして語りあって交流するのかなと思う。

委員7 アドバイスというか、若者は真面目と言っても元気だ。先ほどお弁当の話をしたが、就職とか、卒論とかそういうものに役立つということや、最先端の課題とか、社会目標みたいなものって、やはりなびく。例えばSDGsという言葉、亀岡ならプラゴミゼロだったり省エネっていうキーワードだったり、まさに亀岡市さんが両方ともきちんとやられていることなので、そういう方々に未来の亀岡はこういうところを目指すんだという話があったりだとかすると、それをきっかけに若者が集まり、身近なところでも他にもこんな困っていることがあるっていう話が進められるのではないかなという気がする。

委員長 今から個別テーマを設けるのは難しいと思う。しかも交流という点では、大学生、社会人基礎力を身に着けるのに一番いい手は異世代で交流の現場を踏むというところにあるので、一度このような現場で大人と喋ったからといって力がつくわけではないが、そんな入口にはなるよってというのは伝えていったら多少なりとも参加することに関心をもってくれないかと思う。

委員3 今あったように大学生は個人個人で話をするのが悩みは持っているのだが、ただボランティアという名前で活動に来ていて、役に立っているのかが分からないと言う。今回こんなフォーラムがあるということをどう説明をしていいか分からない。発表会があってそれでみんなで話し合おうよって何人くるか。私たちの活動は見える活動をしているので、まだ来てくれていると思う。それ以外のこれちょっと手伝ってよとかいうと、それ何になるのという感じで、なかなか一歩は踏み出しにくい。ハードルを下げないと進んでは参加しにくい。先ほどもレッツボランティアという話があったが、その辺のことをひとつ掘って案内をしないと参加しにくいのでは、参加しても発表がしにくいのではと思う。

委員4 これは単発なのか。シリーズ化はできないのか。続けて開催したら一回来てよかったという人は口コミで広げてくれて、またそこで新たな課題が生まれたら持って帰って第3回とかシリーズ化ができたと思う。

事務局 今年度はこれを含め2回くらいできたらと思っているところだが、交通費やお弁当とかいうところはかなり難しいかと思う。

委員7 パイプが作れるというだけでも若者は喜ぶ。私たちの会社は今、古民家を借り上げてそこに企業をスポンサーにつけていて、我々が基本的にはファシリテータをしているのだが、時々企業の方が東京から来てくれたり、ZOOMで参加してくれたりしている。それだけでパイプができる。そこで「君、説明が上手だね」って言って「うちのインターンどう？」ということもある。だから今からでも間に合う方々だけでも亀岡市の新しい仕事をやられている方などを、私も紹介するので、そういう企業の方にちょっとオブザーバーで出てもらえると、若者にとっては自分の町を考えつつも社会勉強、社会人としての発言の仕方や、企画の立て方、まとめ方などを学べ、それを見てくれている大人が自分たちがこれから社会に出ていくときに繋がっておきたい方々であると、来てくれるのではないかと思う。まさに私はそのようにやっている。亀岡には有数の企業があると思うので、こういう取り組みをするので、若者の発掘でどうですかと声をかけて、企業のメンバーが数社集まるといいのではないか。

委員長 とてもいいアイデアだと思う。今回の場合は市民活動を柱にするのと、若者を集める、育てる、という事が主の目的ではないので、元の企画をベースに考えていきたいと思う。今頂いたアイデアはまさに若者に焦点を当てていて、それでなんとか企画を打っていくという点ではとてもいいと思う。先ほど委員3が、大学生高校

生が先生になって地域の方に教えるというそんな形もあるのではないかと仰っていたが、まさに今回の場合だと団体の方々が今「高齢化で困っている」みたいな話が出たときに大学生が「それやったらこんなことしたら」のように、大学生は大したアイデアは出せないかもしれないが、教えることはとても勉強になるので、偉い先生から話を聞いて、そうかそうかと納得して帰るより、問いを投げかけられてそれを一生懸命答えていく方がきっと学びは多く持ち帰ってもらえるかとも思った。それでいくとお互いに学び合う場と少し抽象的だがそのあたりで今回はスタートしたらどうかと思う。議論が付きないので、今日お話しいただいた内容を踏まえて、私はファシリテータをやることになっているので、詳細は一緒に詰めさせてもらえたらと思っている。委員4がおっしゃられたように一回やってみてその後どう展開していくかを聞いていないが、どうアクションプランをお持ちなのかは是非お聞きしたいと思うし、それが無いのであれば作っていかないと、一回実施してよかったね、で終わりでは発展性がないのでご検討いただけたらと思う。それと、こんな方向で団体を育てていきたいというビジョンがあってその中の一回のワークショップだというご提案をいただけると嬉しいと思った。

委員2 企画の話だが、全体を通して結局なにも結果が残らない感じで自動解散みたいになる可能性が高いイベントだと思う。せめてアンケート等で最後に何かの収集だけはした方がいいかと感じた。

委員長 最後に参加者それぞれが紙を持って、そこにこれから自分は亀岡の町にどんなことをしていきたいみたいな一言、それこそ「笑顔でまちを歩く」でもいい。個人個人がここで得たものを一つ他者に伝えていくという、そういうことがしていけたらと思う。

(2) アンケート調査の実施について

事務局 資料に沿って実施案について説明

資料：アンケート調査の実施について（案）

委員2 事業所の件数や規模、どのような選別をされるのかが決まっていれば教えていただきたい。

事務局 これから計画していく。現段階ではこのような事をしていこうという段階で、この案に対し、ご意見等あればいただきたいと思う。規模毎で分けるだとかそういったこともいただければ参考にしながら作成していきたいと思う。

委員長 事業所が実際、具体的に行っている市民参画の活動ってどういうことがあるのか。委員の皆さんにもお聞きしたいが、皆さん市民活動に関わっておられて事業所がこんな支援してくれているとか、こんな社会貢献してくれているとかをご存知ないか。

委員3 事業所の規模や対象が分からないのでは答えづらい。実際市民活動をしていても事業所が同じ地域にあれば寄付をいただくことがあるかもしれない。そうでない限り事業所との関わりはそんなに無いのかもしれない。

事務局 今回の協働推進計画を作ったときに亀岡市は市民活動に対する企業との結びつきがなかなか少ないのではないかというご意見をいただいたので、企業がどのような考えをお持ちであるかを調査して協働できることを探していきたいと思っている。

委員長 今後推進していこうという方向で、アンケートを通して、こんな市民活動への参画とか社会貢献の方法があるのだということを、事業者がアンケートから気づくということが、アンケートの手法の一つとしてあるが、こんなことを事業者としてできるよというのを選択肢で出されるというのも一つかとは思う。なかなか事業者の方も言われても、思いつかないところもあるかもしれないし、普段市民活動を意識せずに貢献されていることもたくさんあるかと思う。

委員2 清掃活動に参加されているとか、そういう例は話として分りやすい。

委員長 あとは寄付もありますし、イベントや祭の時に駐車場を貸したりだとか、他にも防災関係で自治会と協定を結ぶなど、それぞれ分野ごとに考えると結構あると思う。

委員2 事業所の規模によって個人として活動されているものと事業所として活動されているものの曖昧なところも出てくるのではないかと思う。

委員長 事業者にアンケートをする前にまずは市役所各部署での企業との連携について聞かれたらどうか。例えば防災の部署だといくつかきくとあると思う。避難所で企業と連携しているとか、災害の時の協定を結んでいたりだとか、それもこのアンケートの中に入ってくるだろうし、福祉の分野でもあると思う。

委員6 何のためにこのアンケートをされるのか。アンケートをされる目的は何で、結果をどのように使われるのか。

事務局 最終的には市役所や市民活動との協働という形で、どのようなことを今しておられて、これから先どのようなこと考えておられるのかというところを聞きたいと思っている。

委員6 自分たちがどのように結果を活用するということだ。

委員長 そこがとても大事だ。

委員6 事業所にしたら、このようなアンケートが市役所から来て、回答が面倒くさいと思う。市役所の方は仕事としてされているが、事業所にとってはプラスアルファの仕事として来るので、結果をどのように活用されるのかという事をもう少し考えて投げ

かけないと、年に1回くらい団体にアンケートをしているのではないか。

事務局 団体向けアンケートを去年は実施したが、それまでは実施していない。

委員6 結果をどのように活用するとか、何のためにアンケートをするかについてはどうなのか。

委員長 資料の目的のところにある「事業者の市民活動への参画状況と意識を調査する」これは目的ではなく、結果を得たいという目標だ。調査した結果をどう活かすのか。事業者の方が社会貢献活動をするというのは、これからとても重要になってくるし、市民側にとってもそうだ。事業者にとっても市民から信頼を得て、自分のところの事業をブランド化し、長く継続していくためには大事なことなので、そういうことには当然活かせるのではないか。おそらく結果をお返しされたら、いろんな市民活動へのアイデアを事業者の方ももらうことになるので、それだったら、うちのところもこんなことできるよという、そういうアイデアをもらうこともできるので、考えてらっしゃるとは思うが、そういうことも書いていただいた方がいいと思う。皆さんいかがか。このアンケート、どういう風に活かしたらいいか何かアイデアがあれば。私の今の意見は思い付きで言いましたが。

委員7 集まる情報を活かすというのは、目的によってどう活かすかで、恣意的にやるか、集めた情報から分析をするかだけだと思うのだが、まず答えてもらうということが大事じゃないかと考えていて、私のところにもよくこういったアンケート依頼が来るのだが、なかなか答えている時間がない。こういう取り組みは総務部長だったり役員だったり代表だったり回答するのだが、じゃあ当社にとってはどんなメリットがあるのだろうかということはどうしても考えてしまう。市役所が実施するのでなかなか難しいとは思っているのだが、協働というテーマに対して協力している会社として、例えばホームページにページがあって載るとか、協力一覧を作るとかそういうアウトプット一つでも、亀岡の企業をいくつか私も知っているが、市役所となかなかパイプがないと言う。商工とはパイプがあって工場誘致などはあるが、そこから先に市民の方と触れ合うパイプがないという話はされている。関わりを持てるきっかけとして名前が載るとか、皆さんと名刺交換できるというだけでもちょっと違うかという気はする。ここは難しいが、アンケートは答えを決めて打つというのが私の鉄則だ。こういうふうに来るだろうという答えを作りあげていくような質問をしていく。あるべき姿ではないのだが、次のステージを定めておく。例えば今農業の研究をしていて、これもアンケートではないのだが、もし、あなたがスーパーなどが全部閉まって、輸出入もとまって、農家になったとしたらどこを一番気にするかというアンケートをしていくと、地域とのかかわり、農地をどう耕したらいいのか、工具はどう入手したらいいのかという問題が絶対に出てくる。それをもって今の農家たちに、新しく就農したい人たちはこういうことで困るから、皆さんが抱え込むのではなくて、もう少し門戸を広げて協力的な関係を作らないと新しい移住者は来ませんよというふうにやっている。市民協働の理念に寄り添ってくれるためには、こういうふうな質問をして、こういう回答を集めるのがベターなんじゃないかという

ことを書かないと、いろんな意見が上がってくるような気がする。そこは、難しいが。

委員長 アンケートをした事業者の方がアンケートをしながら「市民活動参加するっておもしろいやん」、そんなことを思えるような質問項目になっていったらいいなというふうに思う。

委員7 質問しながらPRするというのがいいと思う。

委員長 アンケートの手法としてそういう点はあるので、そこをご検討いただけたらと思う。加えてアンケートが将来実施する事業にどうつながっていくのかということ、このアンケートを取ることによって将来こんなビジョンを描いているという一文は必要だと思う。市民活動を一步進めるための行政としてのアプローチ、そんな施策が今あるのか、今後検討されていくのか。事業者が市民活動を積極的にやりたいと思う何か動機付けというのがあるといい。検討いただきたいと思う。

委員7 PR、広報が一番のセオリーだ。市役所がやっているものに関わったというのが、市役所のお墨付きの企業っていうのが言える。そういうところをうまく使われると企業は喜ぶと思う。

委員2 実施時期が令和4年の1月から2月となっているが、今この話をしていて、この委員会が終わったらいきなりアンケートが完成してしまうという話ではないのか。

事務局 委員会をアンケート完成までに開催することは難しいが、メール等でご意見をいただきながら進めていければと思っている。

委員7 宣伝だが、南丹市にデジタルアンケートのツールを納めている。市民全員にセキュアな環境でQRからアンケートが回答できる仕組みを納めているので、気になるようなら南丹市に意見を聞いてほしい。

委員7 何事業所ぐらいをイメージされているのか。

事務局 予算規模では400事業所ぐらいを考えている。

委員7 本社が別のところにあったものが、亀岡に移転したとか、亀岡に工場があるという会社もだいたい繋がっている。私たちが南丹でロボットコンテストをやるときに、実は全部ローラーしている。その時に亀岡市とパイプが欲しいという要望は結構増えている。何をするのかというと、自分たちで農業をやったりとか、何かをする取組をけっこうしていて、その時に人手が足りないという意見がある。社員が来ていてもすぐ帰ってしまうという。なので、亀岡市と一緒に何かできたらというキーワードはいくつかでているので、そういう企業の方が新しい協力体制は生まれやすいと思う。

委員長 今日では重要なアンケートの内容に関する意見がでたので、それについては盛り込んで、全部について盛り込むというよりは検討をしっかりとさせていただきたいと思う。

事務局 本日いただいたご意見をもとにしっかりと検討をして計画を練らさせていただきたい。

(3) その他

事務局 令和2年度市民活動団体アンケートの結果について説明
資料：市民活動団体アンケート調査結果

委員長 これは今「取扱注意」だが公開されるということではよかったか。このアンケート結果を受けて次はこんな手を打ったらいいのではないかなどご意見はいかがか。

委員7 ちょっと課題が気になっている。14ページの課題のところだけこう人集めという課題が多い。冒頭のワークショップの話もあったが、こういうところに繋げる目論見でやるのがいいと本当に思う。

委員6 12ページに支えあいまちづくり協働支援金に対する意見というのが出ているので、参考にされたらいいのかと思う。

事務局 支援金の活用に至らなかった理由が10ページの11にあがっている。一番多い理由が自己資金の範囲で活動しているという結果が出ているが、活動資金を課題としたり、市に求めるものは支援金というのが上位に挙がってきており、相反するような意見をいただき、どういうことなのかということでは思っている。

委員長 お金は欲しいが、使いにくいということなのかもしれない。

事務局 使いやすいように考えていかないといけないが、原資が税金なので、ある程度の申請書の提出や報告はしっかりといかないといけないところはある。

委員長 この課題にこたえるのは今の制度の中では難しいところがあって、最先端の資金調達、資金提供の方法をご検討いただく必要はあるのかと思う。

委員1 これは回答率が30%ということだが、メールや紙での回答ということで、どうしても面倒に感じてしまうところがあるので、先ほどあったようにネットでの回答にするにしても答えやすいようにしないとけない。

委員7 先日国土交通省から車のアンケートが来ていて、2日間車を運転したのを全部記録してくれという内容だった。紙で来たのだが、ちょっと無理だった。回答の仕方をもうちょうと考えて欲しいということでは思う。

委員長 先ほど委員7がおっしゃっていたが、このアンケート結果を今度のフォーラムに活

かしていったらどうか。自主財源を伸ばしていきたいという団体さんは結構いらっしゃるのだからこういう方に対して何か講座をもっていくとか、財源の中で一番多いのが事業収入というところが7団体もあるので、そういうところが自主財源をどう確保されているのかということも単純に知りたいと思う。

委員7 ソーシャルという分野では京都信用金庫がすごく力をいれてらっしゃる。認定制度を作られており、地域の取り組みに対する融資などの支援が豊富だ。別の金融機関では結構返済が厳しいのだが、京都信用金庫は割と親切だ。そこで京都信用金庫と組んで、ビジネスプランを作成しましょうというワークショップを開催するとかそういうのは現実的なのかなと思ったりする。アンケートでも市役所や他組織との連携がしたいというのが多いので、2市1町で連携したプログラムを視野に入れるのも面白いと思う。

4 閉会